オレゴン留学日記（1）

早稲田大学教育学部３年・オレゴン大学へ留学準備中

清沢　健二

インド・ガンジス川で舟遊び

自己紹介

はじめまして。早稲田大学教育学部英語英文学科３年の清沢健二（きよさわけんじ）と申します。今年の９月から早稲田大学の留学プログラムを使って、オレゴン州ユージーンにある University of Oregon へ交換留学することが決まっています。私の専攻は Bilingualism と Bilingual education というもので、人はどのように第二言語を習得するのか、より効果的な学習方法とはどのようなものなのか、またどのように第二言語を教えていけばよいのか、というようなことを学んでいます。

私のゼミの担当教員は、University of Oregon で TESL(Teaching English as a Second Language) を教えておられたこともあり、バイリンガル教育について研究していらっしゃいます。今年の６月には、日本で最初の英語イマージョン教育（英語を使用して他の教科も学ぶ学習法）を始めた加藤学園にゼミ生で見学に行きました。また７月には同様に英語イマージョン教育を行っている、ぐんま国際アカデミーを見学する予定です。

オレゴンへ留学に行っている間も、ポートランドの日本語補習校やユージーンのイマージョン教育学校を見学したいと考えていて、機会があれば実際にボランティアとして活動してみたいと思っています。

英語イマージョン教育

加藤学園では初等学校、暁秀中学校・高等学校を見学したのですが、私にとって驚きの連続でした。小学校１年生の算数の授業では、十数名の児童が机を使わずに先生の周りを囲むようにして座っていました。黒板はありません。ネイティブの先生が「ここに４つのみかんがあります。」「僕はこれを２つ食べました。さていくつになるでしょう？」と英語で質問すると、「４引く２は２です。」と子どもたちが答えます。もちろん英語です。子どもたちは積極的に手を挙げて、自分の意見を発表しようとします。オープンな教室で自由な雰囲気があり、子どもたちも授業を楽しみながら受けているようでした。使っている教科書は日本で使われているものを翻訳したものでしたが、明らかに、私の経験した小学校の教育とは違ったものでした。

高校生になると、教室の雰囲気や机の並びは日本と似たようなものでした。しかし教科書はたいへん厚いものを使っていて、カリキュラムも異なっていました。加藤学園の高等学校では、国際バカロレア資格に向けてのカリキュラムを組んでいるそうです。バカロレア資格とは、国際的に認められた大学入学資格を得るための統一試験のことです。国際バカロレア資格は、著名な大学を含め、世界の 1700 校以上の学校で認められている大学入試資格です。日本では筑波大学、上智大学、国際基督教大学、京都大学法学部などが入学資格として認定しています

加藤学園の高校生は、92％がこの試験に合格するとのことです。しかし日本の大学へ入学する生徒も多いので、普通の高校生と同じく、日本の大学入試を目指したカリキュラムも組まれているそうです。

イマージョン教育をじかに見学して、たくさんの驚きがあり、興味深い発見がありました。国際的な文化感覚、意見を主張する積極性、コミュニケーションツールとしての英語などを身につけていくのに、イマージョン教育はとても有効な方法であると感じました。しかし同時に、私はおもしろい発見をしました。小学校４年生のクラスにアメリカ人の子どもが一人いたのですが、その子は先生の話をさえぎってまで発言しようとしていました。日本人の子どもは、積極的に挙手をするのですが、ちゃんと自分の発言する順番を待ってから意見を述べていました。

どちらがいいか悪いかを言うつもりはありません。しかし私はこの様子を見て、日本人の子どもの「日本人らしさ」を感じました。アイデンティティーの問題や獲得できる言語のレベルなど、バイリンガル教育は様々な問題点を抱えていることも事実です。これから留学するにあたって、様々な論点においてバイリンガルについて研究していきたいと思っています。